

2025 年度開催 第 13 回大谷大学文藝コンテスト

審査員からのメッセージ（小説部門）

一般社団法人言の葉協会 専務理事 宮脇一徳

「大谷大学文藝コンテスト」今年度は小説部門に 85 作品が寄せられた。いずれも魅力いっぱい力作で、読んでいて楽しく、気持ちが嬉しくなるような作品ばかりでした。タイトルがうまい。「二号車はどこへゆく」「アイスクリーム座」「店内全品ニセモノです!」「クラゲの手帳」「雪解け」「犬と蛙と、鼠と鳶と」などなど。考え苦しみ推敲しながら、生み出した作品たち。完成した作品の内容を見事に表現した結果。いずれもうまい。楽しい。ステキだ。読み終えてひとつひとつが輝いている。タイトルと内容がしっくりしない作品もありました。豊かな想像力、あふれる創造力、語彙力。普段の読書量が作品にあらわれる。審査の先生方から、たくさんのいろんな厳しい意見、優しい評価がよせられ、それぞれの作品に賞が決まった。審査が終わってホッとするとともに、すべての作品にそれぞれ賞が決まり「命」がふきこまれる。ひとつひとつの作品が吹き込まれた命で、輝きを増してきた。審査でとても苦勞し、悩んだ後の充実した爽快さがあふれてきた。たくさん苦勞し、悩んで応募されたすべての皆さんの不断の努力や苦しみに衷心より感謝するとともに、次回にも、創造性いっぱい魅力あふれるオリジナル作品の応募を期待しています。